

ほんいろいろ NO.130

# えと 干支



とんだぼやししりつとしょかん  
2025年12月

## 『夜明けをつれてくる犬』

吉田 桃子／著

講談社 2021 年 請求記号:9-0/33



はな 話そうとしても、のどに見えないビー玉がつまったようになり、うまく話せなくなる美咲。唯一の話し相手だったレオンを亡くしてからは、毎日レオンのことばかり考えていた。ある日、通学路にある花屋さんでレオンにそっくりな犬を見つけ、勇気を出して店に入ってみた。レオンとそっくりな犬は、ビリーという名前だった。

## 『くいしんぼうシマウマ』

ムウェニエ・ハディシ／文

アドリエンヌ・ケナウェイ／絵

草山 万兎／訳

西村書店 2016 年 請求記号:I33/7



むかし、世界中の動物がみんなうすぼけた色をしていたころのことです。ある日、巨大なほらあながあらわれて、そのなかから毛皮やつの、しっぽがみつかりました。動物たちは思い思いにきものをつくりはじめます。くいしんぼうのシマウマもほらあなへむかいますが、たちどまっては草をたべるのでなかなかたどりつきません。やっとなつたほらあなにのこつていたものは黒い布だけでした。シマウマのきものは、どんなものになるのでしょうか。

## 『十二支のはじまり』

岩崎 京子／文

二俣 英五郎／画

教育画劇 1997 年 請求記号: Eホ/7



むかし、かみさまが動物たちに正月に集まるように声をかけました。ねずみは、ねこに二日に集まるとそを教えま  
す。ねずみや牛、ほかの動物たちもつぎつぎとかみさまの  
ところへたどり着きました。かみさまは、早く着いた動物か  
ら千支の年を決めていきました。だまされたねこは、1日お  
くれてかみさまのもとへやってきます。

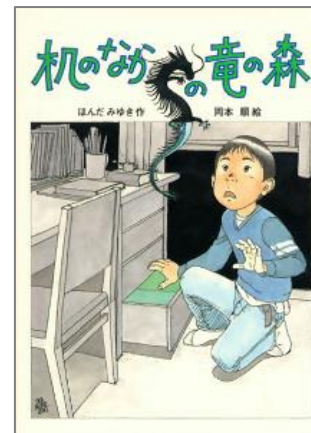
2.

## 『机のなかの竜の森』

ほんだ みゆき／作

岡本 順／絵

ポプラ社 2003 年 請求記号: 9-0/ホ



コートが通う小学校の門の前に『いい竜 売ってます』とい  
うのぼりを立てた屋台がでました。竜がほしいコートは、屋台  
の店じまいをするおじいさんに声をかけます。おじいさんは、  
「竜のたまご」だと言ってどぐりのようなものをくれました。そ  
れと一緒に、「土」「雲」と書かれたふくろもわたされたコート  
は、さっそく説明書のとおりにかの机のひきだしに「土」を入れ  
て「竜のたまご」をうめました。さて、竜は生まれるのでしょうか？

11.

ほんだみゆき・岡本順・机のなかの竜の森,ポプラ社,2003,1p.

## 『うさぎがいっぱい』

ペギー・パリシュ／ぶん

光吉 夏弥／やく

レオナード・ケスラー／え

大日本図書 2011年 請求記号:9-0/ハ1



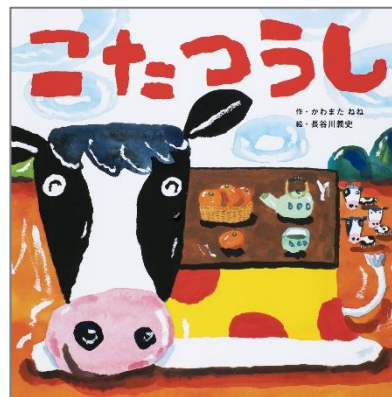
モリーおばさんの<sup>いえ</sup>家に一匹の<sup>いっぴき</sup>ふとったうさぎがとまりに  
きました。よく朝、なんと子どもがたくさん<sup>う</sup>産まれていまし  
た。子うさぎは<sup>こ</sup>大きくなると、モリーおばさんよりよく<sup>た</sup>食べる  
ようになり、<sup>き</sup>気がつくとそのまた子どもが<sup>いえじゅう</sup>できて、家中が足  
の<sup>ば</sup>ふみ場もないくらいうさぎだらけになりました。モリーお  
ばさんは<sup>だい</sup>大ピンチです。

## 『こたつうし』

かわまた ねね／作

長谷川 義史／絵

世界文化社 2020年 請求番号:エホ/ハ



<sup>さむ</sup>寒くてこたつから<sup>で</sup>出なくなり、このようなすがたになったこた  
つうし。こたつとうしてこたつうし。いつでもどこでもこたつを<sup>たの</sup>楽  
しめます。ある日、子どもたちが「こたつっていいものなの？」と  
たずねます。入ってみるとモー<sup>さいこう</sup>最高!3頭入るとぎゅうぎゅうだ  
けと、<sup>しあわ</sup>幸せすぎてうっしっ!さあ、みんなもこたつに<sup>はい</sup>入って<sup>よ</sup>読  
んでね。

## 『トラのじゅうたんになりたかったトラ』

ジェラルド・ローズ／文・絵

ふしみ みさを／訳

岩波書店 2011 年 請求記号: Iソ/ロ

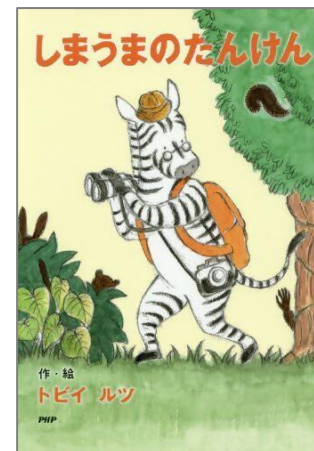


インドのジャングルにすむトラは、すっかりとしをとりえものがめったにとれなくてほねとかわばかりになっていました。「いいなあオレもなかまにはいりたいなあ」やせこけたトラはきゅうでんのひろまでおいしそうにごはんをたべている王さまとかぞくがうらやましくてたまりません。ところがある日、トラはひらめきました！

## 『しまうまのたんけん』

トビイ ルツ／作・絵

PHP 研究所 2019 年 請求記号: 9-0/ト



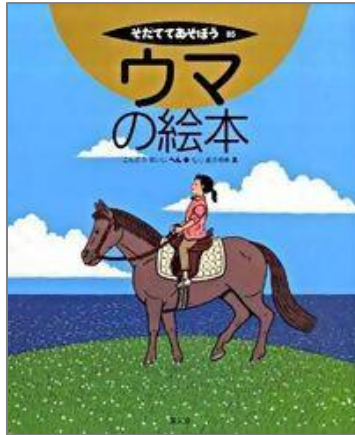
サバンナでくらすしまうまの子どもは、ある日さばくの王さまに「見つけたらしあわせになれる『まぼろしのどうぶつ』をつれてくるように」といわれ、ひとりで『まぼろしのどうぶつ』をさがすぼうけんにでかけることにしました。まぼろしのどうぶつとはどんなどうぶつかな？しあわせとは？みんなでもっとさがしてみようよ。

## 『ウマの絵本 そだててあそぼう 85』

近藤 誠司／編

森 雅之／絵

農山漁村文化協会 2009 年 請求記号:649



ウマは、むかしから草を食べて平原をかけまわっていたよ。さいしょ、ウマは人の食べものでした。人がウマをかいはじめたのは 6000 年前!それから、のったり荷物をはこんだりして、人をたすけてくれる大切な仲間になったんだ。ウマには色んな仲間がいて、体の大きさや毛の色もちがうんだよ。さあ、ウマのひみつをのぞいてみよう!

8.

## 『十二支えほん』

谷山 彩子／作

あすなろ書房 2020 年 請求記号:382



むかしむかし、ある年の暮れに王様が言った「元日の朝、新年のあいさつにきなさい。1 着から 12 着までを王様にしなさい」というお話は有名ですが、この本では大昔に中国で作られた数え方、「十干」と「千支」の組み合わせや、時間と方角、年齢をあらわしていた事など、「十二支」について知ることができます。

5.



## 『イチからつくる 羊の毛糸とフェルト』

本出 ますみ／監修

バン チハル／絵

農山漁村文化協会 2024 年 請求記号:586



毛糸やフェルトは、ヒツジの毛からできています。ヒツジの毛はあたたかく、雨をはじき、燃えにくくてじょうぶな、やわらかいすごい毛なんです。また、ヒツジは毛がぬけないように、人が使いやすいよう品種改良されてきました。ヒツジの毛を刈りとったあと、ごみを取って、洗って、フェルトや毛糸になる工程がよく分かるよ！

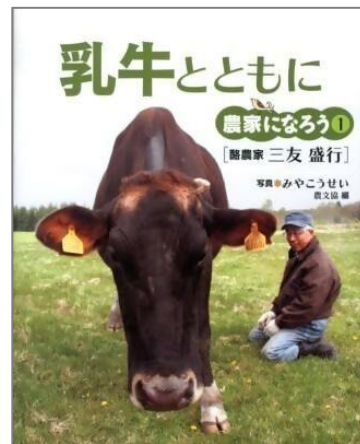
6.

## 『乳牛とともに 農家になろう①』

みや こうせい／写真

農山漁村文化協会／編

農山漁村文化協会 2012 年 請求記号:641



みんながのんでいる牛乳を作るために牛を育てている人たちがいます。この本では、北海道で50年も牛を育てている人が出てきます。まいにち朝早くからえさをやり牛舎のそうじをします。牛の鳴き声からぐあいかわるくなっていないかわかります。そうやって大切に育てた牛たちが、たくさんの乳を出し、私たちの食卓に並びます。

7.